

子どもの未来応援団報告書

表題：「竹名人になろう」

学校・団体名：中川東小学校

活動グループ名：5 学年

担当者・教諭名：小田切 宏久

活動人数：22名

(1) 活動を始めた理由

本年度、中川東小学校はふるさとに根差した学習活動を行うこととなった。中川村のよさや課題と感ずることは何かを探ったところ中川村に自生している孟宗竹はここがほぼ北限であること、しかし手入れが行き届かない竹林が増えて、村民は困っていることを知った。そこで竹を活用して暮らしを豊かにしていきたい、実際に竹に携わっている方と出会い、竹の魅力を教えてもらいたいと願った。そして5 学年全員で竹の活用方法やそれを教えてくださる方と出会い、実際に竹を用いた製作活動を行うことで、中川村の竹の魅力や竹を有効活用できる方法を広く村民に伝えることができるのではないか、そういった学習がふるさとに根差した学習活動であると考え表題にある活動を行うようになった。

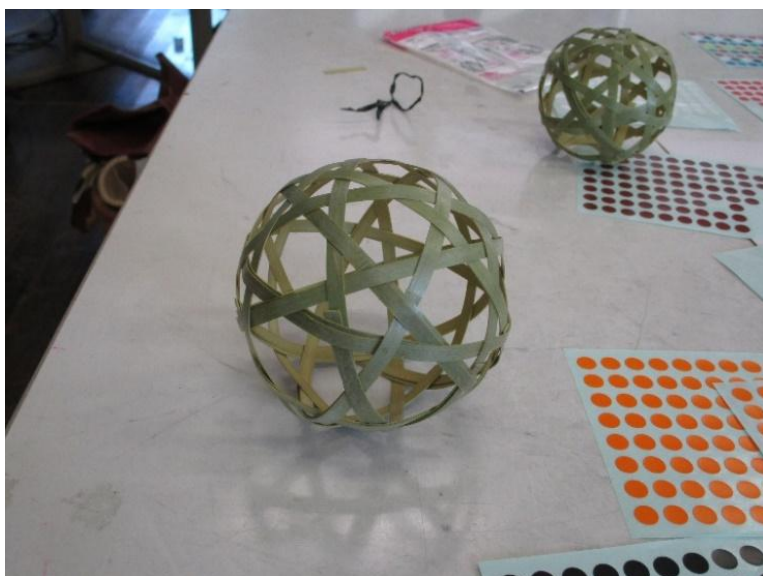
(2) 活動内容、活動の写真



・クラスでどんな活動をしたのか時間をかけて話し合いをする中で、竹細工を作りたいということになり、その中でも竹ボールに興味を子どもたちは示した。地域の方を探す中で、竹細工職人の方がいることが分かり、指導をしていただくことになった。



・竹ボール作りは、思った以上にむずかしいことが分かり、友だちと協力をしあいながら作ることが多くなった。制作には、12時間ぐらい必要となった。また、竹ボールをつくる手順が、とても数学的であり、見通しを持ちながら、先のことを考えて、作ることが必要となった。



・制作には、困難が多く、すべての竹ボールを完成することにはできなかったが、自分たちの竹ボールとして思い出の品となった。また、せっかく作ったので、このことを村の文化祭に発表をしようということになった。



・村の文化祭の展示にあたって、今までの制作過程を模造紙にまとめて展示をおこなった。また、文化祭にもクラスで見学を行い、自分たちがここまで行ってきた活動を外部の方に見ていただくようにした。



・村の文化祭の展示には、新聞社にも取り上げられ、自分たちがやりたかったことが、他の人にも認められ、より充足感を得ることができた。



・思い出の竹細工をさらに作ろうということで、竹細工職人の方にアドバイスをもらいながら、かごの製作を行った。日頃の家の方への感謝も含めて、作分を書き、家の人にプレゼントをした。



・1年間の活動を振り返り、自分たちが行ってきたことを写真に文章を添えて、まとめの本を作成した。2月の授業参観では、家の人前で発表し、活動のまとめとして位置づけていく予定。



(3) 活動の成果

・活動をしてみての成果としては、まとめとして作った冊子（下の写真）の記述から考えると、自分たちがやってみようという願いからスタートした活動であったので、成就感や達成感を得られた子どもが多かった。

・また、教科指導では、ゆっくり理解を進める子どもたちが、活動の中では、時には、クラスを中心となり活躍することが度々見られ、クラスの中核的な活動として位置づけ、学級へのこどもたちの所属感を高めることにつながった。

・竹細工を作る中で、クラス内で、いろいろな友だち同士の関わりが見られた。普段では、積極的に関われない子どもであっても、体験活動を通して、そこに関わりの必然が生まれ、コミュニケーション力を高める活動にもなった。



竹を編むのがむずくおしてもらいながらやりあきらめずできたあとはともだちにおしえられてよかったです。

！竹名人を目指そう！

【まとめ】

四海波かごより竹ボールの方が作るのが大変だったけど四海波かごを自分なりに工夫してできてよかった。他の人にも教えることができたし楽しくやれたので嬉しかったです。また竹細工を作りたいです。

